

生物図鑑

どくのおさかな時には妖怪？

これまでの魚類調査では約80種類の魚族が確認されている。その中にはニゴイ、アユ、ボラなどといった常識もいるが、今夏の調査ではゴンズイ、アカエイが初めて確認された。河口堰は汽水域だから顔を出しても特段不思議ではないが、少し変わり者か、ちょっぴり旅行好きなのであるか。



河口堰で確認されたゴンズイ

アカエイは、ムテ状の尾に毒棘があり、釣り上げて刺されようものなら、ものすごい激痛が走るらしい。またアカエイには、伝承がある。安房の沖合で船が嵐に遭い、葉をも掻き回して見つけた島に近づくと、なんと島自体が沈んでその荒波に飲み込まれるというもので、その島の正体は、体長10km以上もあるアカエイだという。さながら妖怪の演出であると言いか言いがたないのである。



牛の顔に似てる？

ゴンズイは、でっかいオタマジャクシみたいな魚で、胸ビレと背ビレに毒棘があり、刺されると激痛が走るらしい。名前の由来は、顔が牛に似ており「牛頭魚(ゴズウオ)」からという説がある。また牛頭という地獄の鬼、海外ではミノタウロスと称される妖怪であり、そのことから分かるように端正な顔立ちとは言えない。それでも幼魚のときは、「ゴンズイ玉」と呼ばれており、黒いずんぐりむっくりした体に黄色い縞模様が見られ、群れを成して泳いでいる様は大変綺麗だそうです。

河口堰周辺散歩

黒部川沿いを散歩すると冷たい風の中、水辺にマガモが羽を休めて深う姿を見かけます。

雌は緑の首に白い一本の白い筋と尾がクルッとカールした羽もあってなかなか魅力的です。それに比べると雄は茶一色と少し地味です。雌は目立ちたがり屋なのでしょうか？

今年も残り少なくなってきましたが、寒さに負けず、暖かくして風邪など引かないようこの一年を締めくくりましょう。



カモの家族ですかね？

編集後記

当管理所では、河口堰のリアルタイムデータを、携帯電話からご覧いただけるようにしています。ご覧頂ける内容は、利根川や黒部川の水位や塩分状況、利根川の水門操作予定などです。もっと詳しく知りたい方は、ホームページの中の「利根川河口堰リアルタイムデータ」をクリックしてみてください。携帯電話では表示されない情報がご覧いただけます。

携帯からのアクセスは、
<http://homepage2.nifty.com/~tone/imode/index.html>
 もしくは、携帯電話のバーコードリーダー機能を使って、次のコードを読み取って下さい。
 パソコンからのアクセスは、
<http://www.water.go.jp/kanto/tonekako/index.html>



地域を守る新止堰

河口堰だより

第18号

発行所
 独立行政法人 水資源機構
 利根川下流総合管理所
 利根川河口堰管理所
 Tel 0478-86-0477

利根川河口堰ホームページアドレス
<http://www.water.go.jp/kanto/tonekako/index.html>

平成19年1月

ユーザー施設訪問

銚子市水道部
 東総広域水道企業団
 の施設を訪ねて



銚子市水道部



東総広域水道企業団

河口堰だより11号・13号にも紹介しました高度浄水処理施設を、有する銚子市水道部・東総広域水道企業団の施設見学を、水を供給する当機構職員の見識を深める事を目的として12月5日・6日の両日に行いました。

黒部川から主に取水しており、安全でおいしい水造りに苦慮されている両施設が高度浄水処理方式を導入した経緯や処理方式の違い、並びに問題点などについて詳しく説明を受け、改めて黒部川の水質浄化の必要性を実感しました。

黒部川を水源とする水道施設では、富栄養化などによる異臭味の発生や健康被害を及ぼすトリハロメタン濃度の上昇などの水質問題に対処するために高度浄水処理を導入し、良質な水道水の供給を行っています。

銚子市水道部では平成13年度から原水段階にて、かび臭などの異臭味成分やトリハロメタン

生成の原因となる有機物質などを処理する高度浄水処理施設を東庄町新宿に建設し、同16年度から稼働させました。その処理方式はハニコームチューブ(蜂の巣)による生物処理と生物活性炭処理を一体として行う施設で、処理能力は30,000m³/日です。

ここで処理された原水は、約19km離れた銚子市本城にある浄水場へ導水し、凝集沈殿・砂ろ過・消毒の浄水処理を行って配水されます。

一方、東総広域水道企業団では、笹川浄水場内に平成16年度から原水の段階において粉末活性炭処理を行い、異臭味・トリハロメタンの元を除去し、後段の浄水前の段階において塩素との反応により生成したトリハロメタンを粒状活性炭処理にて吸着除去する高度浄水処理施設を建設し、同18年度末から供用開始しています。この二種類の活性炭処理方式により処理される能力は、約38,000m³/日です。

両施設とも、日々、刻々と変化する原水に対し、各種水質試験を実施し、活性炭や薬品などの使用量を逐次把握し、より効果的な手法を用いて安全かつ良質な水道水を供給するため昼夜を問わず奮闘されています。

お忙しい中、両日とも対応していただき、有り難うございました。この誌面にて御礼申し上げます。



銚子市水道部 処理場の見学状況



東総広域水道企業団 の見学状況

利根川下流沿川紀行

関宮林蔵生家と記念館

全国を測量し日本地図を初めて作成した佐原(現香取市)の伊能忠敬とともに、探検家としても有名な関宮林蔵は、



関宮林蔵生家

安永9年(1780年)、常陸国筑波郡上平柳村(現在の茨城県つくばみらい市)に生まれた。

林蔵が16歳の頃、地元小貝川で幕府が行っていた堰止め工事に関わりその才能を認められた。

その後、江戸に出て幕府普請役村上島之允の従者として初めて、幕府の命により蝦夷地(今の北海道)に渡り、寛政12年(1800年)同じく幕府の命により全国を測量していた伊能忠敬と函館で会い、師弟の約を結んだと言われている。また、



関宮林蔵立像と記念碑

後には伊能忠敬より測量術を学んだとも記されている。

関宮林蔵の名を世に知らしめた「関宮海峡」を発見するまでに、

極寒の地である東蝦夷地・南千島の測量や、エトロフ島に渡り沿岸測量と道路開発・植林などに従事した。

当時、日本は鎖国政策をとっていたが、ロシアは日本に通商を求め、軍艦によりエトロフ島のシャナ会所を攻撃する事件が起こった。これを機に幕府はカラフト探検を林蔵らに命じ、二度の探検の末カラフトが完全に島であることを発見した。文化6年(1809年)林蔵30歳の時であった。こうして大陸とカラフトを結ぶ海峡を「関宮海峡」と名付けたのである。

その後も蝦夷地に留まり、約10年を掛け測量

を続け「蝦夷図」を完成させた。

また、林蔵を取り巻く人々の中には、ドイツ人医師で博物学者のシーボルトを語らずにはいられない。

文政6年(1823年)に来日し、文政12年(1829年)に国外追放処分となるまでの間、日本において西洋医学・蘭学を教える一方、日本に関するあらゆる資料を収集。この間において当時、ご禁制であった樺太・蝦夷・日本地図を入手したが、これが発覚し追放処分となったのである。いわゆる「シーボルト事件」である。

シーボルトは、天保3年(1832年)に日本を紹介した書において、関宮海峡(まみやのせと)を初めて世界に紹介した。

関宮林蔵記念館には、屋外に林蔵の生家と像・記念碑や酷寒の地で使用した測量用具や探検用頭巾とともに、林蔵が積した資料が室内展示されている。

また、近くの小貝川には、林蔵が16歳の頃、携わったとされる岡堰が最新の堰として改築されており、当時の面影を偲ぶことは出来ないが、現在の堰の直上流「岡堰中の島橋」を渡ると、小島に林蔵の像と記念碑が建っている。



岡堰中の島橋



監修：利根川愛好会会長 林 敏夫

短信・河口堰

黒部川を水仙ロードに

11月22日(木)、黒部

川沿いの遊歩道に「水仙1万個の花の道」を造ろうと昨年から取り組んでいる東庄町・同町観光協会からの呼びかけに応じて、今年も水資源機構では、利根川河口堰管理所・東総管理所の10名で参加しました。

黒部川沿いの堤防にある遊歩道の桁沼川から菟敷橋までの間、約2kmに1万個の水仙を植えるというもので、昨年は干葉集が観光客誘致に力を入れる「観光キャンペーン」の一環として実施し、3月末には可憐な花が咲き、道行く人を楽しませてくれました。

今年も、東庄町・同町観光協会が独自に企画し、地域の活性化とともに、故郷を流れる河川・水辺の環境保全に関心を持ってもらおうと、水仙の球根約1,000個を用意して植栽活動を11月23日(金)に200名の参加者を得て実施しました。

水資源機構の両管理所は、町からの要請でイベントにさきがけ、その前日に生育の早い球根の植栽を行いました。



なれない球根つきで穴掘り

当日は、あまり風も無く植栽にはもってこいの日でありましたが、昨年と同様に草は刈ってあったものの土は硬く固まっており、鍬で粗ら掘りしてから水仙の球根を植え、その上にシャベルで土を被せ、水を撒くまでの作業を行いました。

職員は、なれない機での作業に、しばらくするとうっすらと汗をかきありさまでしたが、約200mの植栽を完了させました。

今後、地元さまざまな活動や催しに参画して地元根ざした活動を展開し、黒部川の水質



きれいな花が咲きまじりよう

浄化に繋がることを願うとともに、利根川河口堰及び東総用水施設への理解を深めていただくことが出来るように活動して行きたいと考えております。

東庄ふれあいまつり



嬉しい混雑ぶり

黒部川の水質浄化のための活動を展開している当管理所からも積極的に参加しました。

「第20回東庄ふれあいまつり」は、東庄町が毎年行っている祭りで、イベント内容も豊富で、約8千人の方が参加されていました。東総管理所と利根川河口堰管理所でも並んで出展し、両管理所の事業についての認知度アンケート(500名)やパネル展示を行い、それぞれの事業について説明を行いました。

黒部川の清掃

10月21日(日)に東庄ライオンズクラブ、笹川漁業協同組合、東庄町、愛宕会、七花会、河口堰管理所などの有志60名が集まり清掃活動を行いました。



ゴミを拾う職員

黒部川および桁沼川の堤防沿いや水辺には投棄された空き缶、空ビン、ビニール、廃材等があり、その回収と可燃物、金属類の不燃物、缶、瓶に分別を行いました。天候にも恵まれ、秋晴れの中、当管理所の4名も黒部川右岸約1kmの清掃に汗を流しました。



集めたゴミ

また、11月15日(木)には、水道水源の清掃作業として旭市、東庄町、東総広域水道企業団、水資源機構(利根川下流総合管理所)の有志35名が集まり本年2回目(6月5日に1回目実施)の黒部川流域の清掃活動を行いました。



黒部川をきれいにしよう!

当管理所では、黒部川をきれいに・大切にしようと感じて下さる方が増える事を目的に実施されているこのような活動に、今後も積極的に参加していきます。